

岩手県立山田病院広報誌



Vol.21 令和5年1月発行

はまかぜ 浜風

発行

山田病院広報・ホームページ委員会

〒028-1352

岩手県下閉伊郡山田町飯岡第1地割21番地1

TEL 0193-82-2111

URL <http://www.pref.iwate.jp/iryoukyoku/index.html>

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。今年も皆さんにとって健やかで実り多い年でありますよう祈念いたします。

昨年は新型コロナウイルス感染症の3年目でしたが、年が明けても収束せず、とうとうコロナ4年目となってしまいました。しかし、コロナウイルスはまだ強い感染力はあるものの弱毒化し重症者の数は減少しました。政府の方針では、今年5月8日に感染症分類の第2類から5類相当へ変更になるようです。季節性インフルエンザと同様な扱いとなりますが、危険な感染症であることに違いはありません。地域経済活動の活発化を期待しますが、今後も適正な範囲での感染対策の継続は必要と思われます。

ところで医師不足、医師偏在などの問題が解決できてから施行されるべき医師の働き方改革(病院勤務医が対象です)が、来年4月から施行されます。全国のどの地域も医師不足の解消の目途がなかなか立たない中で、特に医師の少ない地方では医療体制をいかに維持していくべきかが大きな課題となっています。岩手県では奨学金養成医師が県内基幹病院や地域病院に徐々に配置されてきており大いに期待しています。

山田病院の職員全員が「患者さんとの信頼関係をもとに安心と最善の医療を行う」基本理念のもと患者さんに寄り添った医療を行えるよう努力を続けます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

岩手
県立

山田病院

岩手県立山田病院
院長 宮本 伸也

山田2年生

総合内科 鈴木宏昌医師



県立山田病院に赴任して2年目になりました。赴任時に書きましたように、震災直後DMATとして山田を訪れましたが、震災後の3年後、7年後とこの地を訪れました。瓦礫が取り除かれ、傷ついた建物も撤去され更地となって、海岸には城壁（防潮堤）が巡らされてきましたが、新たな町の息吹、復興は、まだ遠いのかなと思われました。赴任してから見る山田町は、嵩上げ整地された区画に新築の家や店舗が建ち始めてはいるものの、復興という町の活気があまり感じられず、少し寂しく感じていました。あれから1年半、山田に住み、山田病院でみなさんとお会いし、驚きを感じたことが2つあります。

一つは、暖かさです。私は、訪問診療を担当させていただいています。さまざまな障害で寝たきりとなり通院することもできず、在宅で療養されている方々を訪問し診療しています。多くの方で、寝たきりになったきっかけが震災後の過酷な仮設生活や不十分な医療であったことは否めません。10年を過ぎた今でも、震災の傷は、まだ癒えていないのかも知れません。しかし、寝たきりの方が多い中、お一人も褥瘡（じょくそう：床ずれ）のある方がおられないのは、私には大いにカルチャーショックでした。どの方も、最新の電動エアマットをお使いで、新しい技術の恩恵もあるのでしょうか、きめ細かい介護サービスと、それにも勝るご家族の「暖かい思い」による支援の賜かと思われます。医療と物にあふれた都会の方々より、人と心に恵まれた治療環境なのかも知れません。



もう一つ驚いたのは、力強い「活力」です。一年目は新型コロナウイルス感染症の危機状態から人の集まる機会がなく、祭りもイベントもほとんどありませんでした。しかし、昨年はその制約も少しずつ緩和され、花火大会や秋祭りなどが戻ってきました。

「今まで何処に
これほど多く
の子供や若者
がいたのか」

と思うほどの賑わいに驚かされました。それとともに、力強い「活力」が感じられました。



若者に受け継がれる郷土芸能や伝統文化の継承ばかりでなく、新しい町づくりにチャレンジする「活力」こそが地域復興の大きな原動力なのでしょう。復興を支えるのは、建物でも城壁（防潮堤）でもお金でもなく、そこの住む人々の熱い「思い」と「活力」ではないか感じられました。これからも、山田の皆さんの熱い「思い」と「活力」を支えるために少しでもお役に立てればと思います。

放射線技術科より

山田病院放射線技術科は、診療放射線技師2名で放射線画像診断検査を行っております。私たちは放射線を使用した検査を受けられる患者の皆様にはできる限り少ない被ばくで安心、安全な検査が出来るよう撮影技術の向上に励んでいます。

被ばくについて

放射線に人体がさらされることを被ばくと言います。被ばくには宇宙、大地からの自然放射線や病院の検査などで受ける人工放射線を外部被ばく、食事や呼吸により放射性物質を身体の中に取り込むことにより、身体の中より放射線を受けることを内部被ばくと言います。

放射線による影響

放射線にさらされることにより染色体内のDNAが傷つきます。人体には傷ついたDNAを修復する機能が備わっているため放射線量が少なければほとんど修復されます。線量の少ない場合数回、長期間に渡って被ばくする場合には人体への影響は少なくなります。

ところが一度に多量の放射線を受けるとDNAを修復することが出来なくなります。ほとんどは細胞死して健康な細胞に生まれ変わるのですが、まれに突然変異を起こして「がん」などとして現れます。

がんのリスク

放射線の線量 (ミリシーベルト)	放射線によるがんの 相対リスク	生活習慣によるがんの リスク
1000～2000	1.8倍	喫煙 飲酒（日本酒3合以上/日） それぞれ 1.6倍
500～1000	1.4倍	
200～500	1.19倍	肥満 1.22倍
100～200	1.08倍	野菜不足 1.06倍
100未満	検出困難	

日常生活で受ける自然放射線量は年間2.1ミリシーベルト、胸のレントゲン撮影で0.06ミリシーベルト、CT検査で部位にもよりますが5～30ミリシーベルトとなっており、がんの死亡リスクが徐々に増えていく100ミリシーベルトの値より小さいことが分かります。



